

## (2) 自転車利用について

近年、自転車に関連する交通事故の割合は年々増加傾向にあり、また、自転車利用者のルール・マナー違反に対する批判の声はあつたをたない状況です。

市民のみなさまから、自転車利用に関するルールの認知度などをお聞きし、自転車の安全利用の促進に向けた基礎的な資料として、今後の広報啓発活動や交通安全教育に役立てていきたいと考えています。

### 危険を感じる自転車の行為

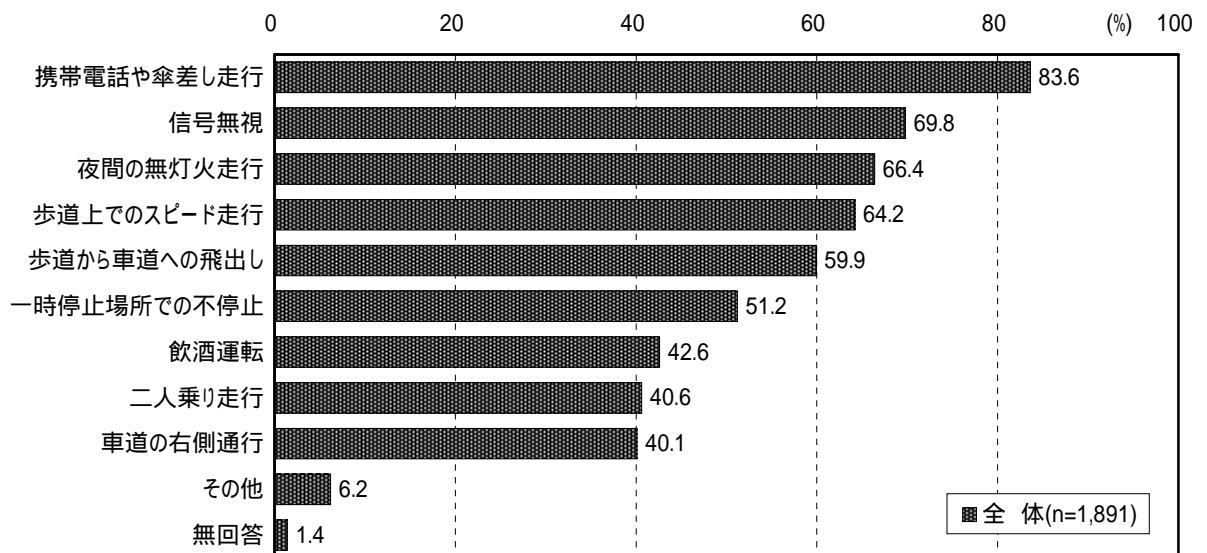
問12

あなたが、自転車に関して危険だと感じる行為はどれですか。  
(あてはまるものをすべて選んで)

#### 携帯電話や傘差し走行が8割以上。

- ・「携帯電話や傘差し走行」(83.6%)が8割を超えている。以下、半数以上の回答者が危険を感じている行為は「信号無視」(69.8%)、「夜間の無灯火走行」(66.4%)、「歩道上でのスピード走行」(64.2%)、「歩道から車道への飛出し」(59.9%)、「一時停止場所での不停止」(51.2%)である。

危険を感じる自転車行為

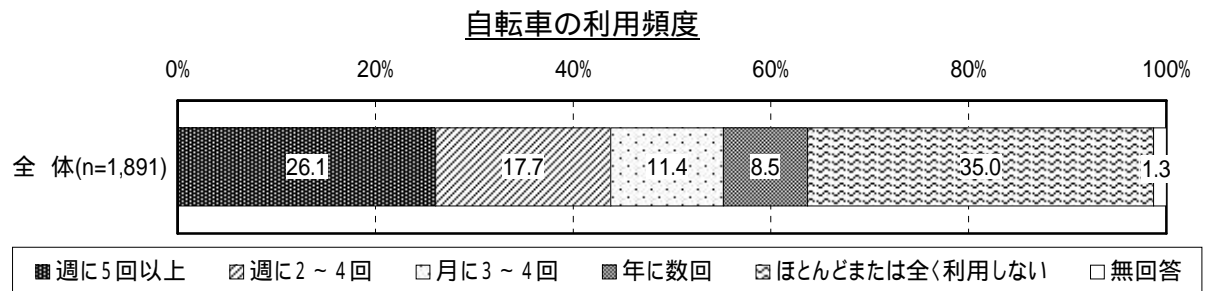


## 自転車の利用頻度

問13 あなたは、どのくらいの頻度で自転車を利用しますか。(1つ選んで)

### 自転車を利用する回答者の4割が、週5回以上の高頻度利用。

- ・「週に5回以上」が26.1%で最も多い。全体(100%)から「ほとんどまたは全く利用しない」(35.0%)と無回答(1.3%)を減じると、63.7%の回答者が日常的に自転車を利用しており「週5回以上」はこの約4割にあたる。



- ・コミュニティ別にみると、北口、今津、鳴尾2では「週5回以上」とする割合が40%を超えている。

### 「週5回以上」の割合が全体を上回るコミュニティ

北口	48.8%	用海	34.1%
今津	45.8%	浜脇	31.3%
鳴尾2	40.4%	瓦木	30.1%
春風	39.3%	甲子園口	29.4%
津門	38.3%	鳴尾3	28.0%
安井	36.2%	甲東2	26.7%
鳴尾1	35.8%		

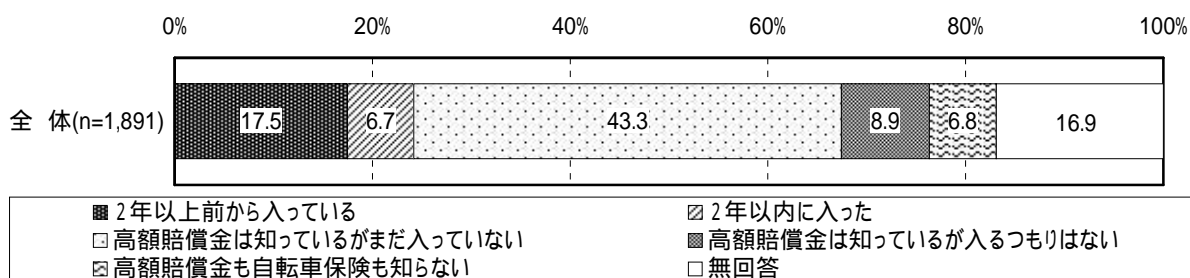
## 自転車保険の加入状況

問14 自転車対歩行者の事故で、自転車に高額な賠償金が課せられるケースが生じています。自転車販売店で自転車の点検とあわせて入ることのできる保険や、保険会社などの自転車保険に入っていますか。(1つ選んで)

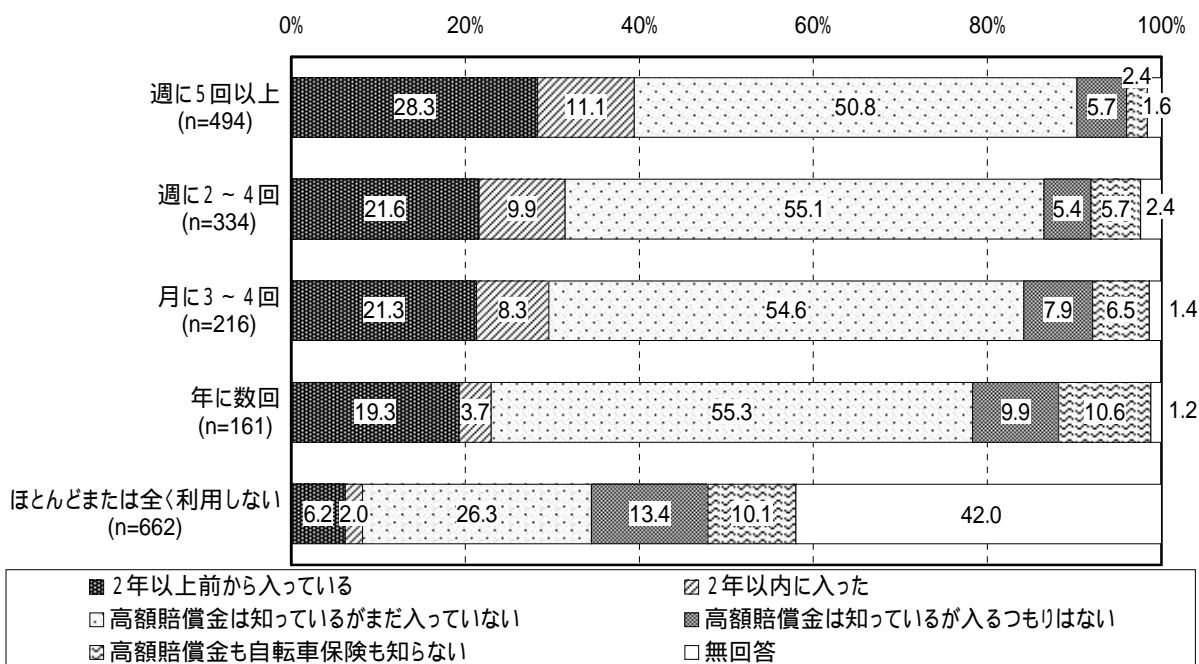
### 加入済みは24%。

- ・「2年以上前から自転車保険に入っている」は17.5%、「最近2年以内に自転車保険に入った」は6.7%で、この合計24.2%が加入済みである。「高額な賠償金が課せられるケースは知っているが、保険に入るつもりはない」は8.9%である。

自転車保険の加入状況



- ・問13の自転車利用頻度との関係を見ると「週に5回以上」利用する回答者で加入済みの割合は39.4%であり全体の24.2%を上回ってはいるが、高い頻度で利用していながらも約6割は未加入であるとみることができる。「高額な賠償金が課せられるケースは知っているが、保険に入るつもりはない」は5.7%で、全体と大差はない。



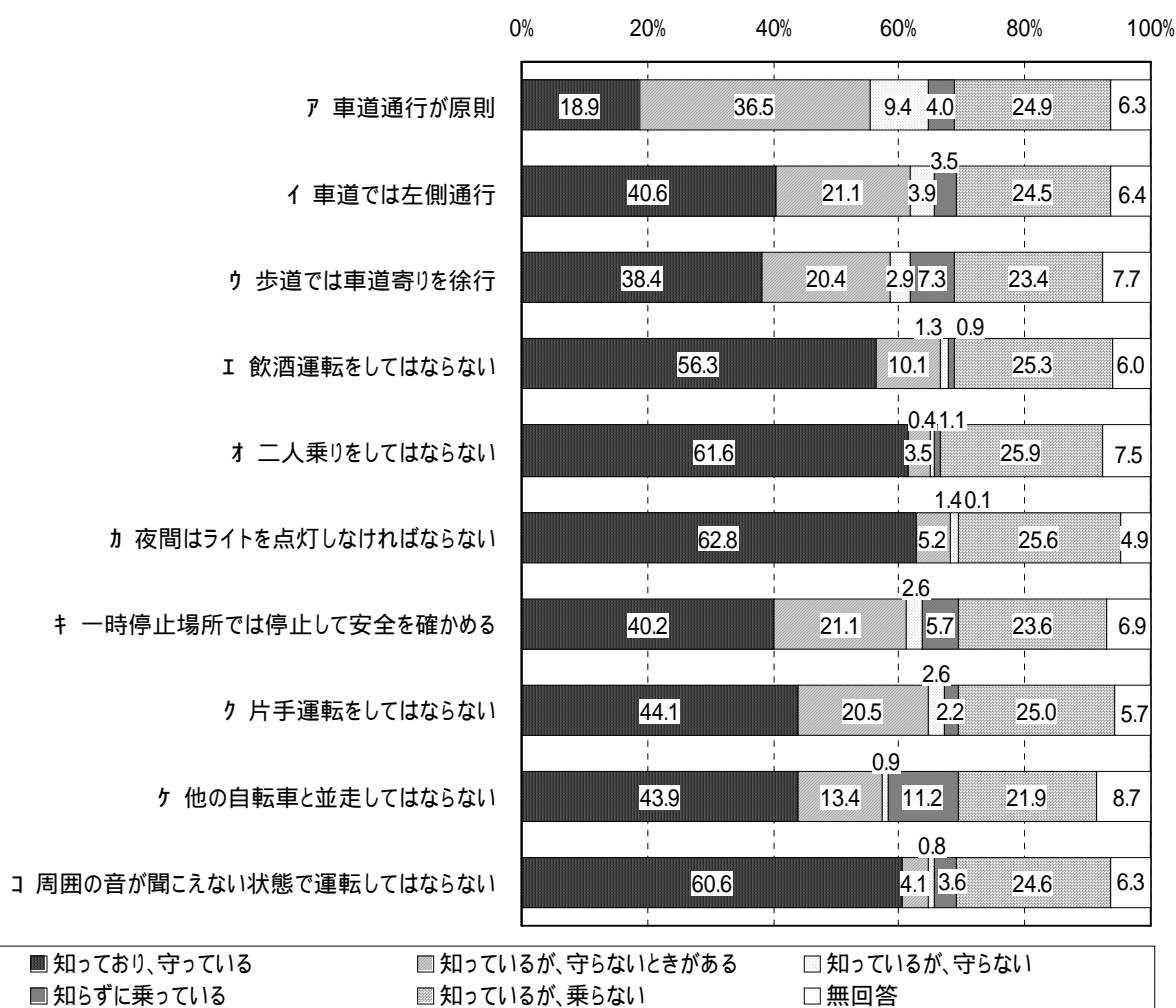
## 自転車利用のルールに対する態度

問15 自転車の利用に関する交通ルールについて、以下のそれぞれにあてはまるものをつけてください。(自転車に乗らない方もお答えください)

### 最も守られていないのは、車道通行。

- ・ 車道通行が原則であり、歩道通行は例外である については、「知っており、守って乗っている」とする割合が18.9%と最も低い。これに次いで 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行等しなければならない の38.4%が低い。
- ・ 「知っており、守って乗っている」「知っているが、守らず乗ることもある」「知っているが、守らず乗っている」「知っているが乗らない」の割合の合計値はルールを知っている割合に該当するが、いずれのルールについても約8割から9割となっており、ルールの周知度に大きな差はない。

自転車利用のルールに対する態度

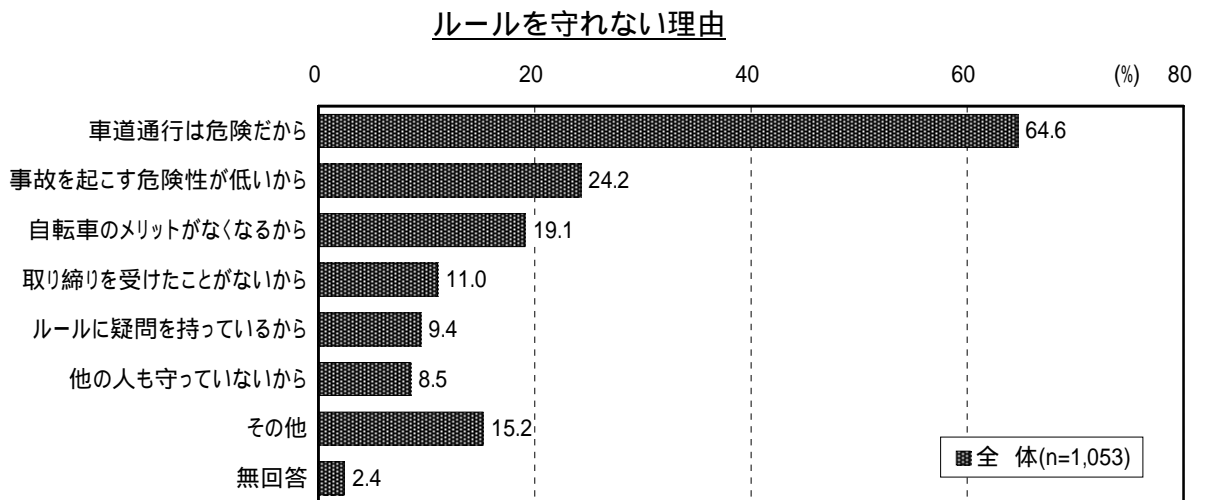


## ルールを守れない理由

問16 問15で1つでも2、3と答えた方にお聞きします。あなたが、ルールを知っていても守れない理由は何ですか。(あてはまるものをすべて選んで)

### 守れない理由は、群を抜いて「車道通行は危険」

- ・問15では 車道通行が原則であり、歩道通行は例外である 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行等しなければならぬ が守っている割合の低い項目であったが、その理由として「車道通行は危険だから」を64.6%の回答者があげている。



## 施策に向けての一言 < 自転車利用について >

自転車は市民の足として非常に身近にしてかつ重要なものである。多くの人々が利用する一方で、危険を感じることも多い。また万一の事故においては人生を左右する大きなけがにつながることもある。安全、快適な市民生活にとって、安全な自転車利用は必須であろう。

問12で自転車に関して危険だと感じる行為を回答者に選択してもらったところ、その他以外の項目がすべて40%を超えており、多くの市民にとって自転車による危険を感じる機会が多いことがうかがえる。その中でも特に突出して多いのは、「携帯電話や傘差し走行」の83.6%となっている。

また50%を超える項目がこの他に5つ（信号無視、夜間の無灯火走行、歩道上でのスピード走行、歩道から車道への飛出し、一時停止場所での不停止）ある。平成25年に西宮市で起こった自転車事故は、警察署が把握している限りでも事故件数2,249件のうち775件で34.5%となっている。自転車に関連する交通事故の割合が年々増加していることを考えると、今回のアンケートから見る上位の項目から対策を講じる必要があるだろう。

問13では自転車の利用頻度を尋ねている。ここからは自転車利用者の約4割が週5回以上利用していることがわかる。また「週5回以上」の利用者が多い地域も明らかなので、これらの地域における自転車の安全利用推進が望まれる。

万一の事故に備えるためには保険に加入することが有力な選択肢である。自転車保険加入状況を探った問14からは、約4分の1の自転車利用者が保険に加入していることがわかった。自転車事故の被害状況と合わせ、保険についての情報を市民に提示していくべきであろう。

問15では自転車の利用に関する交通ルールに対する態度を尋ねている。車道通行の原則が最も守られていない。36.5%が「知っているが、守らないときがある」で、9.4%は「知っているが、守らない」と他の項目に比べ突出している。また「知らずに乗っている」が最も多いのは「ケ 他の自転車と並走してはならない」の11.2%である。自転車利用のルールはおおむね認知されているものの、状況に応じて無視されていることがうかがえ、啓発が必要な項目も明らかになった。

ルールを守れない理由を尋ねた問16への回答を見ると、車道通行が危険だからという回答が群を抜いて多い。自転車専用レーンの設置など自転車が安心して走れる道路環境が整備されると状況は改善される可能性がある。ただしこれには予算と時間がかかるため、当面の間は自転車事故についての実態と危険性の周知を徹底すること、万一の事故に備えた保険加入についての情報提供といった対応にならざるを得ないのかもしれない。

自転車利用の頻度については地理的な事情も大きく関連していよう。事故の起こりやすいポイントなどについてわかりやすい情報の提供を継続していくことが望まれる。

（関西学院大学 山田真裕）